

今週のお祈り
聖霊降臨後第4主日(特定6)特祷

あなたを愛する者のために、人の思いに過ぎた良い賜物を備えてくださる神よ、どうかわたしたちに何ものよりもあなたを愛する心を得させ、わたしたちの望みうるすべてにまさる約束のものを与えてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 にちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木 2-20-1
でんわ: 03-3710-6031

号外 203

発行日
2024年
6月16日

今年は梅雨入りが遅いようで、夏本番のような暑い日が続いていますね。教会の花壇の植物もさんさんと降り注ぐ太陽の光を浴びて、すくすくと育っています。どうしてそうなるのか、神様の不思議な力を感じます。



今週の聖書 マルコによる福音書 4:26-34

26 また、イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が地に種を蒔き、27 夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。28 地はおのずから実を結ばせるのであり、初めに茎、次に穂、それから穂には豊かな実ができる。29 実が熟すと、すぐに鎌を入れる。収穫の 때가来たからである。」30 また、イエスは言われ

た。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。31 それは、からし種のようなものである。地に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、32 蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」33 イエスは、このように多くのたとえを用いずに語ることはなかったが、ご自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された。

聖書からのメッセージ

執事 高柳 章江

神の国とは、神様の思いが実現している世界、神様の愛に包まれている世界のことですが、毎日のくらしのなかでは、今の世界がほんとうに変わるのだろうかと思ってしまうこともあるでしょう。イエス様は神の国について、種のたとえをもちいて説明しました。種を地面にまいても、人の目には地面が変わりがないように見えます。しかし、土の中の種は、水を吸うと種をおおっている皮が破れ、種の中にある栄養分を使って化学反応を起こし、酸素を吸収してエネルギーをため、根をだし、さらに栄養を蓄えて地面の上へ芽をだして、葉っぱをだします。それから茎がのびて、葉が茂って、やがて実をつけるのです。神の国も同じです。神様はいつも私たちを愛し、見守ってください。神の国は完成に向かって育っているのです。